

電解水透析 血液透析後の疲労感軽減



株式

腎不全患者の血液を人工的に浄化する血液透析（人工透析）。透析後に重い疲労感を訴える患者も多いが、透析の際に「電解水透析」と呼ばれる新技术を取り入れることで、この疲労感を軽減できることが分かり、病院やクリニックが相次いで採用に動いている。

一般的な血液透析は、ダイアライザーと呼ばれる装置に血液を取り込み、膜で浄化する形で行う。膜を隔てた反対側に透析液を流すと、濃度の違いなどから血中の老廃物や余分な水分が透析液側に移動。逆に透析液中のカルシウムなどが血液側に補充される。こうして浄化された血液は再び患者の体内に戻す。透析液は原液を希釈して作るが、この希釈用の水に水素

が含まれた電解水を使うのが電解水透析だ。水素の抗酸化、抗炎症作用により、結果的に疲労感の軽減につながるということが臨床試験でも実証されているという。

整水器メーカーの日本トリム（大阪市北区）が国内で唯一、医療機関向けにこの電解水製造装置を供給している。同社の田原周夫社長「写真」は「納入医療機関数は33に達した。今後も患者のQOL（生活の質）向上に寄与するシステムとして、この技術への理解を促していきたい」と話している。